笹川孝一教授退職記念

笹川孝一教授
ご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長　佐藤　厚

本学部で教鞭をとられてきた笹川孝一教授が本年度をもってご退職されることになりました。これまでの先生のご活躍に対して一言お礼を述べさせていただきます。

1　法政大学、キャリアデザイン学部への貢献

笹川先生は、法政大学に在職する間に、数多くの教育・研究業績を残されていますが、なかでもキャリアデザイン学部の開設に際しては、常務理事プロジェクト副座長、総長室プロジェクト座長、設置準備委員長として尽力され、2003年4月からは初代学部長として4年間にわたって学部はもとより法政大学に貢献されました。またその間、大学院の経営学研究科キャリアデザイン学専攻の設置に関しても、設置準備委員会委員としてその実現に尽力されました。キャリアデザイン学部創設者としての先生のご活躍はまことに特筆すべきものといえましょう。

笹川先生は、キャリアデザイン学部設置のみならず、法政大学のアイデンティティーを高めることにも貢献されました。自校教育「法政学」プログラムの立ち上げと運営、「法政大学校歌」および「日本における生涯教育研究の源流としての法政大学高等師範部～城戸幡太郎、留岡清男、波多野完治、宮原誠一、乾孝に焦点を当てて～」という2つテーマについて自ら講義されました。また、21世紀の法政大学検討委員会委員、120周年記念シンポジウム国際関係部門責任者、エクステンションカレッジ長、大学評価委員、健康保険組

合理事、法政大学教職員組合委員長等として、法政大学の多面的発展に貢献されています。

2　ご経歴と教育面、研究面での貢献

先生は、1973年3月東京都立大学人文学部人文学科を卒業後、同大学院博士前期課程を経て博士後期課程へと進んでおられます。

先生は1988年4月法政大学文学部に専任講師として着任され、1990年4月に助教授、1996年4月に教授に就任しました。2003年4月からはキャリアデザイン学部で、生涯学習論、演習などの授業のほか、1988年以来33年間にわたって社会教育主事・社会教育士課程の責任者を務めてこられました。また大学院では生涯学習論、修士論文指導を担当されました。

ご専門の学識を踏まえながら、幅広い知見や経験から院生・学生の指導にあたっていただき、多くの院生・学生が先生の学問に触れて成長し、社会の多方面で活躍されています。

先生のご在職の間に、本学部は、先生から多大のご尽力をいただきました。ご専門の生涯学習研究は、本学部の学習の基盤になるものですが、先生からは様々な建設的な意見をいただいただけでなく、先生が牽引役となって、「キャリア体験学習（国際）」というキャリア体験科目に、台湾をフィールドとして設定することができました。この科目は今日、法政大学全体の中で高く評価されています。

先生は、学会活動や研究の分野でも多方面で多くの業績を残されています。1940－50年代の社会教育の歴史についての実証研究、日本社会教育学会での年報『日本の社会教育』の執筆者、編集委員、委員長等としての役割を果たすことで、法政大学の文学部教育学科、キャリアデザイン学部、研究科、資格課程の存在を学会に広めました。

著作活動においても、『生涯学習社会とキャリアデザイン』『キャリアデザイン学のすすめ』『キャリアデザイン学への招待』などの著作物を学部教員の一員として編集、執筆することによって、キャリアデザイン学とキャリアデザイン学部について広くアピールしたと言えましょう。

また先生は福澤諭吉研究者としても知られています。とくに『学問のすゝめ』

についてソウルでの韓国語訳の出版や、学部紀要においてリテラシーの視点から翻訳、注釈、歴史的な位置づけ等をされてきました。それは、福澤とキャリアデザイン学とをつなぐ「独立自尊」「自己肯定」や、新しい社会を設計し築いていく主体に誰もがなりうることを、リテラシーの視点から歴史的文脈の中で明らかにしました。とくに、江戸時代までの朱子学や蘭学とベンジャミン・フランクリンなどアメリカ建国の立役者たちの実践や学問の伝統をクロスさせ、それによって、『学問のすゝめ』研究に新しい光が当てられることとなりました。

最後に、先生は国際的にも活躍してこられました。

まず、日韓社会教育セミナーや東アジア成人教育フォーラム、アジアヨーロッパ会合成人教育部会等の創設や役員等を務め、この分野の研究と実践をリードしてきました。

また、日本国内外で、外国人の学習権や識字教室等の理論や実践について、市町村教育委員会や朝日新聞、岩波書店、NHK、トヨタ財団、『月刊社会教育』などと連携しながら取り組み、『日本で暮らす外国人の学習権』の刊行やテレビ番組「花嫁たちのニホンゴ」制作に貢献されました。

笹川先生の1つの専門は「自分史」教育ですが、それも含めた国際的活躍が評価されて、2012年に「国際成人・継続教育殿堂」（アメリカ、南オクラホマ大学）に、日本人で唯一、パウロ・フレイレらと並んでいわゆる殿堂入りをされました。

さらに、水の総合的条約としてのラムサール条約に深くかかわる、日本湿地学会の創設と発展に多大なる貢献をされ、研究をリードしてきました。とくに「保全・再生の文化、賢い利用の文化、対話・力量形成・教育・参加・啓発の文化」を総合する「湿地の文化」研究では何冊もの編著書を日本語、英語、中国語で出版され、ラムサール条約締約国会議のサイドイベントや同条約事務局湿地の文化ネットワークでも活躍し、国際的にも影響を与えてこられました。近年では、人間と自然との関係を認識して実践主体を育てていく湿地教育について、細胞・受精卵レベルから位置づける「羊水から始まる湿地教育」「『人間と自然との共生』ではなく、『自然の中でのヒトと多様な生命体との共生』」を提唱され、注目されています。

以上のような活動によって、教育学の新しい分野を開き、キャリアデザイン学を補足し、あわせて法政大学の社会的評価を高めることに貢献したといえましょう。

こうして振り返ると、本学に対する先生のご功績は多大であると改めて知ることができます。33年もの長きにわたり、本学で学ぶ学生や院生に生涯学習の専門的見地から、斬新な教育活動をなさって下さったことに感謝します。

先生は2021年4月より本学名誉教授となられる予定ですが、ますますのご活躍とご健勝をお祈りするとともに、本学部へのご教示やご鞭撻を引き続きお願いしたいと思います。